



笠松を、町民がささえ合う心温かな町に ～ボランティア活動が町に温かさと活力を生み出す～

笠松町には、いろいろなボランティア活動に取り組んでいる方がいます。道路や公園、墓地などの清掃美化活動、子どもたちや高齢者の安全確認や見守り活動、高齢者への配食サービスや施設への支援活動、学校や保育所・幼稚園などの教育機関への支援、町づくり活動など、さまざまな分野で自分ができることを地道に取り組んでいます。こうしたボランティア活動の積み重ねが、心温かな町につながっていると考えています。

その一例として、本の「読み聞かせ」活動に取り組んでいるグループ「かみふうせん」を紹介します。「かみふうせん」の結成は平成8年頃、4人で始められ、今年度には21人になりました。公民館、町内の小学校や保育所、児童館などで幅広く活動し、子どもたちが読み聞かせを熱心に聞く姿がうれしくて、活動を続けています。これらを通して、子どもたちは読書の楽しさに目覚めて、豊かな心を伸ばしていくことでしょう。



本の読み聞かせを熱心に聞く子どもたち

笠松町には、この他にも多くのボランティアグループが活動をしています。道徳のまち笠松では、35のボランティアグループの紹介をした冊子「ささえ合うまち」を作成しました。中央公民館に設置していますので、ぜひご覧ください。また、町ホームページからもご覧いただけます。

身近で「ちょっといい話」がありましたら、中央公民館へ電話、FAX、郵送、メールなどでご連絡ください。お待ちしております。
☎388-3926 FAX388-3233
メールアドレス:kyouikubunka@town.kasamatsu.lg.jp

かきまつの民話「昔むかし」

ご神木のお泊り ④

十一月中旬の夜の川岸は凍るような寒さだった。林兵衛と勘三郎は一睡もしないで、大切なご神木を見張っていた。

黒やみの川に水の音だけがぶきみに聞こえたが、その中でゆらゆらとゆれるご神木は、まるで神の宿った生きもののように、二人を見すえているようだった。

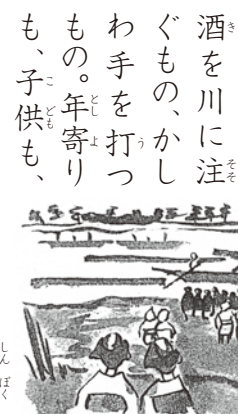
「見えないものはこわいのお。神様つて、どこにいなさるかのお。林兵衛。」

「その、ご神木さまに宿っているお方が神様じゃやて、勘三郎。」

「ご神木、不思議な木じやのお。」

朝になった。昨日の空がうそのように晴れて、暖かな日ざしであった。村人たちはご神木を拝もうと川岸いっぱい群がっていた。

さい銭を投げるもの、お神



酒を川に注ぐもの、かしわ手を打つもの。年寄りも、子供も、男も女も、みんなこのご神木の無事通過を祈っているようだったし、願いごとをおたのみしているようでもあった。

林兵衛はお祈りをする前に「あ、無事任をお果たし申した。」と胸をなでおろした。

勘三郎は晴れやかにパンパンとかしわ手を打った。その音は遠くまで、ひびいた。

昔々の話じゃ。今はのう、ダムができて、ご神木の川下りもせんよおになつてしまつたのお。この前の造りかえは陸路で運ばれたそうじゃが、川下りが見えんのが残念なことじゃなあ。

(おわり)